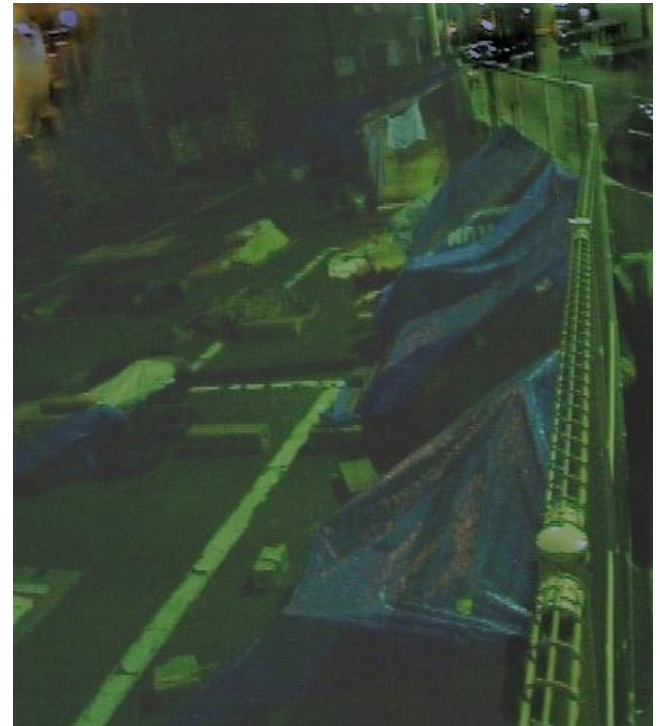
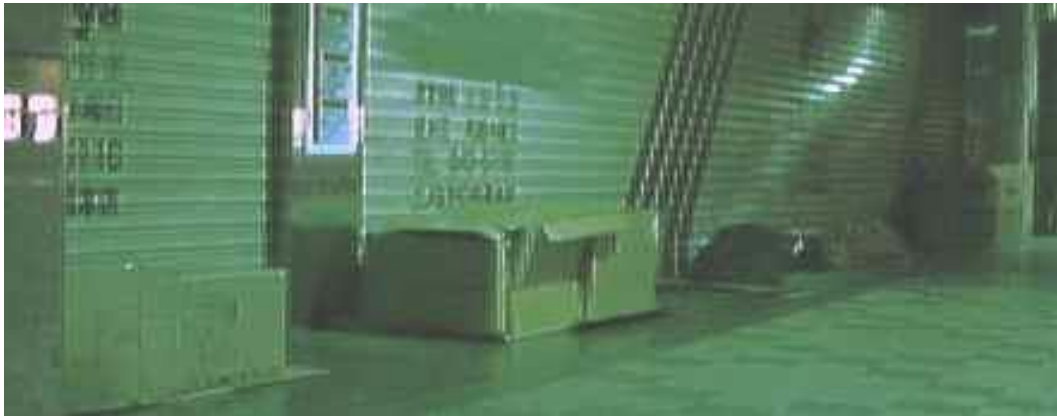




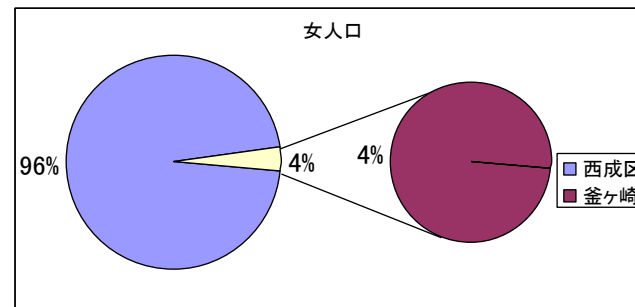
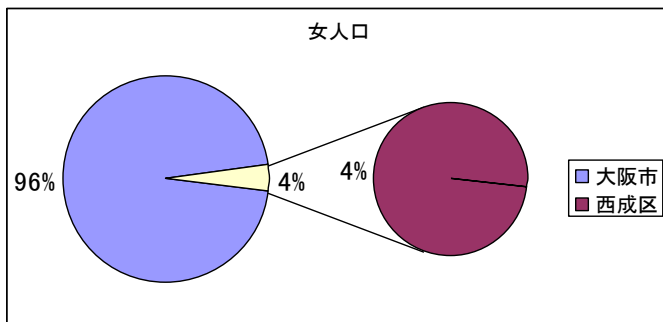
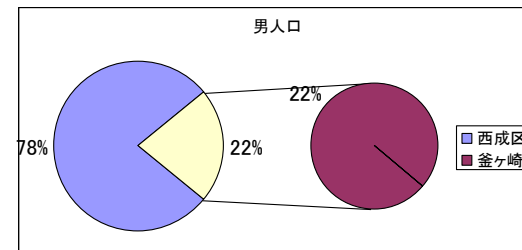
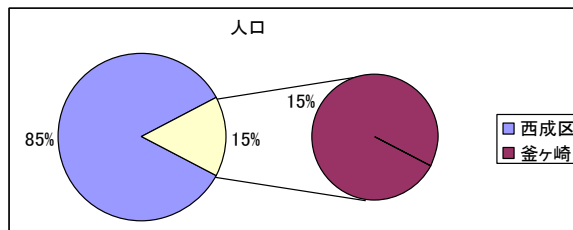
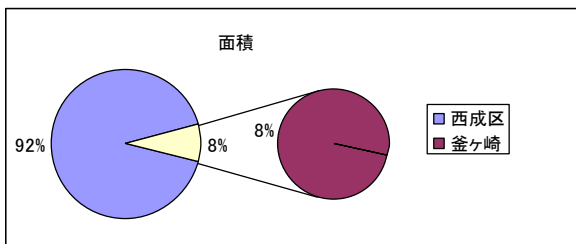
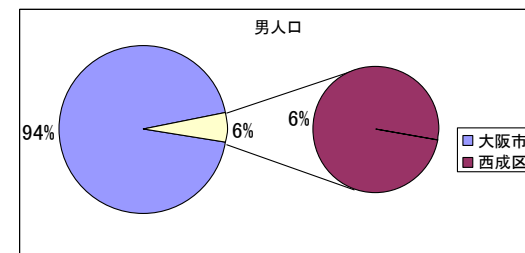
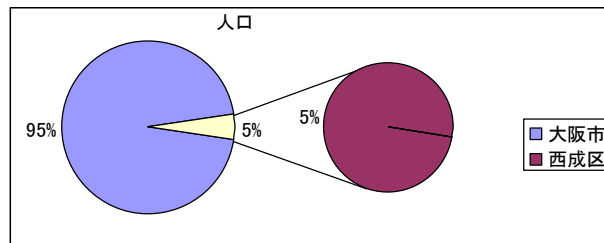
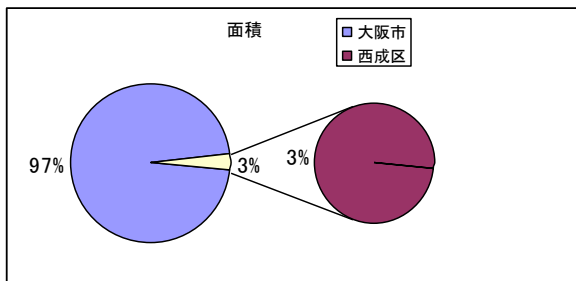
大阪市内における ホームレス支援の活動

2006年3月



| | | |
|-------|-----------------------|-------------|
| ホームレス | 野宿生活者 | 路上・公園・河川敷 |
| | | あいりん臨時夜間避難所 |
| | | 公園仮設避難所 |
| | 野宿に至るお それのある 人々 | 簡易宿泊所 |
| | | 自立支援センター |
| | | 施設・病院 |
| | | 家賃滞納・間借り・同居 |
| | | 社会的に孤立している人 |
| | | |

| | 面積(hkm) | 総人口(人) | 男 | 女 | 世帯 | 人口密度(/hkm) | 野宿生活者 | 男1,000人の内 |
|-----|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|-------|-----------|
| 大阪市 | 221.96 | 2,629,634 | 1,280,462 | 1,349,172 | 1,245,068 | 11,847 | 3,540 | 2.8人 |
| 西成区 | 7.35 | 132,762 | 78,026 | 54,736 | 78,948 | 18,063 | 1,113 | 14.3人 |
| 釜ヶ崎 | 0.62 | 24,000 | 22,000 | 2,000 | | 38,700 | 800 | 36.4人 |





浮浪者襲撃 8年前から

新たに少女ら60人自供

横浜 スリル満点、面白かった

三月月に横浜で、子どもたちに浮浪者連続襲撃・殺人事件が起きたが、神奈川県警の七百名の調べて、浮浪者襲撃は実は、少なくとも八年前、昭和五十年ごろに始まり、その後も小学生、中学生の間ですと続けられていたことが明らかになった。同県警は、浮浪者を襲ったとみられる少年少女十人から事情を聴いており、このうち女子を含む六人近くが、「襲ったことがある」と認めている。先の事件は、襲撃した子どもたちの家庭環境など問題がある、との見方が多かったが、事件が新に大きくなったことで、改めて、子どもたちが襲撃されたのか、その土壌、背景が問われるだろう。

刑事事件の立証は無理



連続襲撃事件の三月月、事件後、時差を消していた浮浪者は再び戻ってきたが、
横浜市中区の同鉄道内原地、街で

襲撃の調べに対して、過去の浮浪者襲撃を認めているのは、横浜市中心部にある中、南、西、保土ヶ谷の四区内の、女子十人を含む未成年者、いま公立中学の生徒から、すでに大学生の者まで、年齢の幅は広い。確認された範囲では、襲撃は五十年ごろに始まった。いくつかの非行グループが「自然発生的」に浮浪者を襲った。グループ相互に連絡はなく、「同時に襲撃」だったらしい。少年の中には、「小学校五、六年生ころから石を投げつけたらしい」と話す者もある。襲撃は、石を投げつけ、紙でいぶくなどを頭みつけ、けつて歩く、といった形をとった。しかし、被害を受けた浮浪者からの届けはなく、襲われていたのを見かけたはずの大人からの通報も、記録されていない。同県は、襲撃の目撃場所、被害者が特定できないため、刑事事件にはできない、とみている。

子どもは幼時、襲撃を「浮浪者狩り」「ごじぎ狩り」と呼んでおり、襲撃に出かける時は、「浮浪者を」タコウツ（殴）、タコウツのようにグニャグニャにする、という意味「な」と誘い合っていた、という。

襲撃はほとんどの場合、グループの仲間だけの「遊び」として行われていたが、メンバーではないのに盛り場を遊べ、誘われ、加わった少年もいた。五十五年ごろから約一年間、浮浪者襲撃をしていたあるグループは、当時の中学校在校生、卒業生六、七人がメンバー。繁華街・伊勢佐木町のゲームセンターなどに集まっては連立って出発、国鉄内原地、千代田や横浜球場周辺まで、ぼろい浮浪者を次々と頭みつけながら走り抜ける、といった「遊び」を繰り返していた。

動機については、大半の子どもは「スリルがあつた」とも「さ」と答えた。少年は調べる、と答えた。「石を投げつけよう」とい、浮浪者は襲撃で来なかった。「襲撃されたこともあつたが、それも面白かった」と話しているという。

浮浪者連続襲撃事件 横浜市中区の山下公園などで、今年一月初めから月初めにかけて、夜間、浮浪者が子どもたちの集団に襲われる事件が続けられ、八件起き、三人が死に、十三人がけがをした。百十一日から十二日にかけて、犯行グループの同市立甲午三、三年生ら少年十人が逮捕された。十人はすでに全国の少年院、教護院に収容されているが、殺人事件二件が未解決のまま、神奈川県警は、なほ捜査を続けている。

1983. 5. 8 朝日新聞

「横浜で浮浪者を殺した少年達は、今世論のフクロだたきにあっていますが、あの子たちを一方的に責める大人たちもずるいと思います。駅の人が浮浪者にバケツの水をぶっかけて追い散らしたり、警官が野良犬でもしかるようになっていたりしているのを見たび見ました。大人が悪いお手本を見せながら、今になって理性のよわい少年たちを血祭りにあげているみたい。」
1983年2月20日毎日新聞・ホットライン欄

| | | |
|-------|-------|-------|
| 路上生活者 | 浮浪者 | 青カン |
| | | 野宿労働者 |
| | 野宿者 | 野宿者 |
| | ホームレス | 野宿生活者 |
| ホームレス | | |

表14 問14

路上(野宿)生活をする前にやっていた仕事は何ですか。

| | 人数 | % | 有効% |
|----------------------|-------|------|------|
| 専門・技術的従事者 | 21 | 1 | 1 |
| 管理的職業従事者 | 18 | 0.8 | 0.9 |
| 事務従事者 | 24 | 1.1 | 1.1 |
| 販売従事者 | 90 | 4.2 | 4.3 |
| サービス従事者 | 187 | 8.6 | 8.9 |
| 保安職業従事者 | 56 | 2.6 | 2.7 |
| 農林漁業作業者 | 12 | 0.6 | 0.6 |
| 運輸、通信従事者 | 78 | 3.6 | 3.7 |
| 採掘作業者 | 0 | 0 | 0 |
| 生産工程・製造作業者 | 221 | 10.2 | 10.5 |
| 印刷・製本作業者 | 19 | 0.9 | 0.9 |
| 建設技能従事者(大工、配管工など) | 426 | 19.7 | 20.3 |
| 建設作業従事者(土木工、現場片づけなど) | 733 | 33.9 | 34.9 |
| 労務・運搬作業従事者 | 65 | 3 | 3.1 |
| 清掃作業・廃品回収 | 61 | 2.8 | 2.9 |
| その他 | 91 | 4.2 | 4.3 |
| 有効回答数 | 2,102 | 97.2 | 100 |
| 職業なし | 43 | 2 | |
| 無回答 | 18 | 0.8 | |
| 合計 | 2,163 | 100 | |

表15 問1 その時の立場はなんでした

| | 人数 | % | 有効% |
|---------------|-------|------|------|
| 経営者・会社役員 | 46 | 2.1 | 2.2 |
| 自営・家族従業者 | 83 | 3.8 | 4 |
| 常勤職員・従業員(正社員) | 834 | 38.6 | 39.8 |
| 臨時・パート・アルバイト | 291 | 13.5 | 13.9 |
| 日雇 | 757 | 35 | 36.1 |
| その他 | 87 | 4 | 4.1 |
| 有効回答数 | 2,098 | 97 | 100 |
| 無回答 | 19 | 0.9 | |
| 非該当 | 46 | 2.1 | |
| 合計 | 2,163 | 100 | |

ホームレスの実態に関する全国調査報告書の概要

調査の目的

ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法(平成14年法律第105号)第14条の規定により、ホームレスの自立の支援等に関する施策の策定及び実施に資するため、ホームレスの実態に関する全国調査を実施した。

III

調査の実施時期

平成15年1月～2月

登録

西成労働福祉センター

あいりん高齢日雇労働者等

55歳以上

輪番紹介

雇用

釜ヶ崎支援機構

就労

就労現場

事業費提供

提供

大阪府・大阪市

2005年度登録者2,784人

| | |
|--------|-------|
| 55歳以下 | 0.6% |
| 55～59歳 | 43.6% |
| 60～64歳 | 43.4% |
| 65～69歳 | 9.8% |
| 70歳以上 | 2.7% |

寝場所2004年5月 1,884人調査

| | |
|------------|------|
| 夜間宿所 | 600人 |
| テント・仮小屋 | 206人 |
| アーケード・軒下 | 191人 |
| 簡易宿泊所 | 222人 |
| アパート・マンション | 118人 |
| その他 | 9人 |

* 1日5,700円(弁当代を引くと5,300円×月平均3日就労=15,900円)

* 2004年5月調査での平均月収=25,812円

* 1週間の内1食も食べられなかった日が1日でもあったもの=212人(11.3%)

* 1日1食食べているもの=60.6%

* 毎日3食食べているもの=27.8%





あいりん臨時緊急夜間避難所

三角公園石舞台上から見た全貌（最下段）。

左写真はシャワー。

右及び上は内部、二段

ベット。光って見えるのは畳の上に敷かれた断熱銀マット。





2004年1月22日開所

(三徳寮東)

萩之茶屋緊急臨時夜間避難所



腰掛け式便器も設置された。シャワーカーの脱衣部分も部屋内に



一組ごとに間仕切りされた二段ベッドが一フロアーに44人分。2階建て5棟で440人利用可能。

2004年5月夜間宿所利用者アンケート

回答者 869人

年齢

| | |
|-------|-------|
| 30歳以下 | 0.5% |
| 30歳代 | 4.3% |
| 40歳代 | 12.1% |
| 50歳代 | 53.5% |
| 60歳代 | 28.5% |
| 70歳以上 | 1.2% |

利用期間

平均値

| | | |
|--------|-------|--------|
| 今日が初めて | 1.5% | |
| ～日前から | 12.4% | 10.9日前 |
| ～ヶ月前から | 29% | 3.2ヶ月前 |
| ～年前から | 57.1% | 2.7年前 |

利用頻度：ほとんど毎日＝64.5%



釜ヶ崎 (あいらん地区) 外
の

釜ヶ崎 (あいらん地区) で野
宿

就労自立相談
福祉相談

相談
自立支援センター入所申込

生活相談
・医療
・長期施設利用
・居宅保護申請
・ケアセンター利用
・自立入所申込み

巡回相談員

各区支援運営課
生活保護被保護者への自立プログラム
就労・社会生活等自立援助

三徳ケアセンター

大阪市立更生相談所

福祉対象者紹介・相談援助

舞洲アセスメントセンター
(自立支援センター舞洲1)

大阪社会医療センター

自立支援センター入所希望者の受入れ
・2ヶ月限度、平均1ヶ月予定・再利用可
・健康診断、相談の中で振り分け

一時保護所

自彊館・大淀寮等
長期施設

就労意欲に関係なく、
様々な原因で客観的
に就労可能性が低い
もの

就労意欲が高く、就労可能性
が高いと見なされる人

自立支援センター

入院

数金支給
アパート入居

国の基本方針
野宿生活を前提とした支援については、
通常的に実施するものではなく、あくまで
緊急的かつ過渡的な施策として位置づ
ける必要がある。

舞洲・西成・大淀・淀川の
市内4ヶ所

就職相談・援助
利用期間3～6ヶ月目途
再利用可

野宿生活を前提とした
緊急・過渡的な施策

廃止

夜間宿所

野宿生活から抜け出せない

特掃 (輪番就労)

月3回では野宿から抜け出
せない

舞洲白寺・市面相・早空保護で野宿解消

廃止

大阪市立更生相談所敷金支給

* 窓口支給

256件

* 施設・病院から

410件

行旅病人(救急搬送)

* 2001年

17,458件

* 2004年

9,736人

2005年度末

行旅病人入院在籍数

約3,000人

施設在籍数

約1,700人

国勢調査野宿生活者

3,540人

合計

8,240人

ハローワーク（職安）



保健福祉センター支援運営課 旧・福祉事務所



野宿生活者（平均年齢55歳）



ダメ！に包囲された私はどうすればいいのか???

野宿生活者は、透明人間にはなれません。社会の中に生存するためのスペースを